

公園計画の基本テーマ

「縁からつくり育む環境体感公園」

森と海に抱かれた自然空間を、市民が憩い、集い、楽しむとともに、みどりアップや生物多様性、地球環境の大切さを、市民が感じ、学び、育てる緑の拠点とします。また、これまでの計画等を踏まえ、「緑」「環境」「歴史と景観」の3つの繋がりに重点をおいた計画とします。

ゾーニング（右図参照）

	エリア	エリアの整備方針	ゾーニング
第1期	開園済み 緑の広場空間創造エリア (約12.5ha)	◇平坦な地形を活かした広場を中心とした空間とし、緑花も含めた新たな緑の創造を図ります。 ・エリア中央に障害の有無などに関わらず、全ての子どもたちが一緒に遊べることを目指した遊具広場を整備します。 ・駐車場やトイレ、休憩所と事務室機能を持つレストハウスなど管理施設を設置します。 ・細長く平坦な地形に地域の方が利用できる多目的広場や草地広場を整備します。	草地広場ゾーン 遊具広場ゾーン 多目的広場ゾーン 駐車場ゾーン 小柴堀緑道の一体整備
		◇ホタルなどの生息環境の保全などにより、自然な里地里山空間の再生を目指します。 ・細長い谷戸の地形を活かし、四季折々の谷戸の自然や風景を楽しめる散策路などを整備します。 ・エリア奥の開けた谷戸空間では、大規模な花畠や付随した利用の広場、遊び場、拠点などを整備します。 ・エリア最奥では、約83mの標高からの展望施設と、新発見の遺構について学べる展示施設を整備します。	谷戸空間再生ゾーン 里山景観再生ゾーン 展望広場ゾーン
		◇既存の樹林地など、自然環境の保全を基本とします。	自然環境保全ゾーン
		◇地下タンクなどの処理を行いながら、植樹などで緑を再生しつつ、様々な体験ができる空間を目指します。 ・保存する一部の地下タンク周辺では、歴史と自然の学習の場となるような整備をします。 ・埋め戻した地下タンク跡地では公民連携を想定した多様な活用が可能となる整備をします。 ・撤去する地上タンク跡地では、かつてのタンクの記憶を体験できる施設を整備します。	遊びの広場ゾーン 天空の森広場ゾーン タンク広場ゾーン
第2期	里山空間再生エリア (約20.0ha)	◇ホタルなどの生息環境の保全などにより、自然な里地里山空間の再生を目指します。 ・細長い谷戸の地形を活かし、四季折々の谷戸の自然や風景を楽しめる散策路などを整備します。 ・エリア奥の開けた谷戸空間では、大規模な花畠や付随した利用の広場、遊び場、拠点などを整備します。 ・エリア最奥では、約83mの標高からの展望施設と、新発見の遺構について学べる展示施設を整備します。	谷戸空間再生ゾーン 里山景観再生ゾーン 展望広場ゾーン
第3期	自然環境保全エリア (約7.7ha)	◇既存の樹林地など、自然環境の保全を基本とします。	自然環境保全ゾーン
第3期	活動・体験・学習エリア (約15.6ha)	◇地下タンクなどの処理を行いながら、植樹などで緑を再生しつつ、様々な体験ができる空間を目指します。 ・保存する一部の地下タンク周辺では、歴史と自然の学習の場となるような整備をします。 ・埋め戻した地下タンク跡地では公民連携を想定した多様な活用が可能となる整備をします。 ・撤去する地上タンク跡地では、かつてのタンクの記憶を体験できる施設を整備します。	遊びの広場ゾーン 天空の森広場ゾーン タンク広場ゾーン

基本的整備方針

インクルーシブの導入

第1期エリアで導入されたインクルーシブの考えについて、第2期以降の整備への導入を検討します。障害の有無に関係なく、利用者各自が自由に行動を選択、体験できるような整備します。

市民協働の推進

設計などの各段階で、市民の意見を聴くとともに、整備段階、開園後の運営管理にも市民が参画できる仕組みづくりを検討します。

民間活力導入の検討

今後導入する可能性のある民間活力についての検討を行います。まとめた平場を確保してレクリエーション利用等の多様な活用が可能な基盤整備とします。

造成及び施設整備への配慮

既存地形や樹林地などを極力生かし、施設整備やタンク処理、バリアフリー動線の確保など、公園利用に必要な範囲の造成を行います。また、施設整備では極力リサイクル製品を利用し、公園・樹林地から発生した間伐材や土を再利用します。

土壤汚染対策の取り組み

計画地の一部が土壤汚染対策法に基づく形質変更要届出区域に指定されているため、法に基づいて処理を行います。利用者の立ち入りが想定される地上部は、汚染土壤を良質土と置き換え、掘削除去された汚染土壤は地下タンクに封じ込め処理します。

旧小柴貯油施設関連の既存施設の利活用

【地下タンク】 埋戻して園地として利用します。状態の良いものは展示施設として活用します。

【地上タンク】撤去して、跡地を利活用します。
【パイプライン】有害物質などの残留の調査結果を確認の上、展示効果のある場所を選定します。

【ハイブリッド】当店はより柔軟な顧客粘着と確実の上、最も効率のある場所とされ
て利活用します。その他のハイブリッドは基本的に撤去、または人の
立ち入らない区域は存置とします。

【建築施設】 第2油ポンプ室は、過年度検査結果を受け、撤去します。
【トンネル坑口】 坑口への安全なアプローチが確保できる場所については展示機能を

【トンネル出口】出口への安全なアプローチが確保できる場所については辰巳機能を備えた施設として利活用します。トンネル自体の利用は行いません。
【砲台等構造】砲台や付帯施設の構造は展示施設として利活用します。

防災への配慮

防災への配慮
防災については広域応援活動拠点として必要な防災機能を整備します

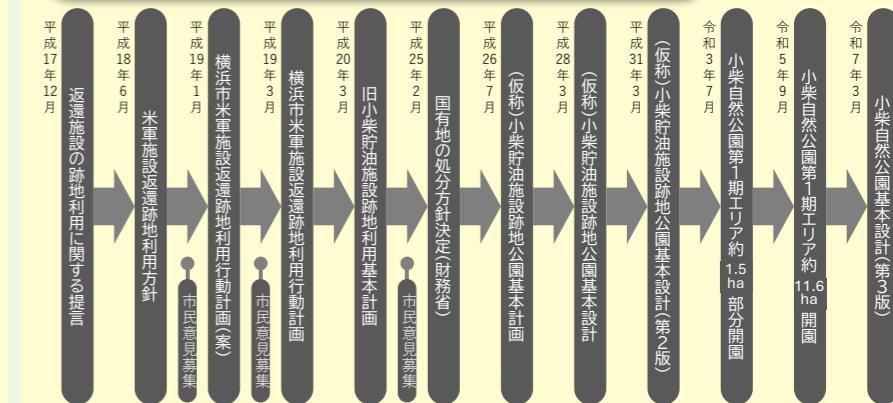
ゾーニング図



基本設計図



これまでの経緯



想定整備スケジュール

